

3 学期始業式式辞

皆さん、おはようございます。2021年、丑年を迎えました。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれる大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「耐えてこれから芽が出る」、何かいいことが起きる前触れの年と言われています。皆さん一人一人が夢と希望を抱き、それがやがて必ず結実すると固く信じて、充実した1年にしてくれることを期待しています。

ところで、皆さんは初夢を見ましたか。初夢を見ると縁起がよいものとされる諺に「一富士、二鷹、三茄子」がありますが、皆さんが見たのはどんな初夢だったのでしょうか。

ちなみに、皆さんは大晦日から元旦にかけて見る夢を初夢と考えていませんか。一般には元旦から2日にかけて見る夢を指します。というのも、大晦日から元旦にかけての夜は眠らない風習があったからです。

さて、お正月の恒例行事の一つに箱根駅伝があります。皆さんの中にもテレビで観戦した人がいるのではないかと思います。残念ながら、青山学院大学は今年総合優勝できませんでしたが、今日は青学率いる原監督について話をしたいと思います。

原監督は監督就任当初、陸上部を強くするための見通しをA4の紙1枚にまとめ、選手全員に配付して、「3年～5年で箱根駅伝出場、5年～9年で上位10校のシード入り、10年目で優勝する」、と言ったそうです。そして、目標管理シートも配付して、記入させました。その内容ですが、

①1年間で達成する目標を記す。

②それを達成するための半年間の目標、さらにその半年間の目標を達成するための3ヶ月、その1ヶ月、その1週間というように具体的に目標を記していく、というものでした。

また、目標管理ノートを作らせ、試合や記録会が終わる度に、選手同士でそのノートを交換させ、目標を達成できているか、目標に近いところまでできているか、課題があるとすればそれは何か、選手同士のミーティングをさせたそうです。

このやり方のメリットについて原監督は、「一つ一つの小さな目標をクリアすると達成感が生まれ、それが向上心となって新たな目標を生み、それを乗り越えることで一段高いレベルの選手に成長する」、と言っています。つまり、小さな成功体験の積み重ねが大きな成功体験につながり、選手を成長させるのだと思います。

皆さんの中には、見通しを持つ、計画を立てようと言われるだけで辟易してしまう、うんざりしてしまう人もいます。そんな人も試みに、まずこの1週間の過ごし方を考えてみてください。この1週間で何ができるようになりたいのか、そのために何をしなければならないのか。自分の目標管理シートや目標管理ノートを作るのもいいでしょう。あるいは、友達と意見交換するのもいいでしょう。

何もしなければ何も変わらない。今のままの自分でいいのか。新年を迎えて気持ちも新たな今こそが、自分を変えるチャンスです。まずは、チャレンジすることから始めてください。

今年こそ、自分を変える節目の年であってほしい。今年こそ、成長した自分、進化した自分を見せる年であってほしい。3年生にとっては志望校合格を勝ち取る年であってほしい。そして皆さんにとって結実と飛躍の一年であってほしい。そう願っています。

最後に、繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染防止ため、3密の回避、マスクの着用、手洗い、うがい、消毒を徹底してください。特に、昼食は席を動かさず対面で取らない、会話をしない、これを厳守してください。また、登下校時にマスクをせず話す人が目立ちます。これも絶対にやめてください。

なお、これまで皆さんに発熱等の症状が見られた場合、出席停止としていましたが、文部科学省及び県教育委員会の通知に基づき、現在、兵庫県は感染拡大特別期であることから、当分の間、家族に発熱等の症状が見られた場合も出席停止とします。診断結果が出るまで自宅で待機してください。